

3-2 ビルマ・カチン州の人びとの 森林資源利用

カチン州の人びと

カチン州は、ビルマ最北部に位置し、中国とインドに接する。人口は、約120万人で、おもに先住民族であるカチン民族（ジンポー、ラワン、リスなど下位グループをふくむ）が住む。カチン州北部には、東南アジア最高峰のカカボラジ（5,881m）をふくむ高い山々があり、西部には、多くの野生動物が生息するフーコン谷がある。また、南部には、イラワジ（エーヤワディ）川の流れる平野が広がっている。カチン州は、森林資源や砂金、プラチナ、石炭などの自然資源が豊富な地域である。

カチンの人びとは、森林に大きく依存した伝統的な生活を営んでいる。持続可能な森林と土地利用の知識は、先祖代々受け継がれてきた。内戦の間、人びとは、森林を避難場所とし、その資源を食料、または薬として利用し、生きのびてきた。



図 ビルマ全土

伝統的な森林資源管理

カチン民族は、森を開いて水田を作り、狩猟を行い、木材を集め、治療や調理に使う非木材林産物（NTFP）を採取し、森の中の川で魚を捕る。カチン民族の知識や慣習は、森林の維持や森林に対する崇敬の念に深く関係している。森林を利用する際には、森林資源の維持をとくに念頭におき、伝統的で循環型の利用を心がける。山地を開墾する時も、山全体の木を伐採するようなことはせず、水源となっている森を残す。

住民は、一定の規則を守って丘陵の森林を保全し、利用する。家族にとって必要な分だけ伐採し、換金作物を集中的に育てるようなことはせず、自家用に育てた食料の余剰分を売るのみである。小規模の狩猟を継続し、野生動物を一定数残すため、また、薪燃料などの森林資源を将来にわたって維持するため、村や町の近くの森は、意識的に保護されている。ある地域で、ある家族が家屋を求めていたり、教会など公共の建物が必要な場合、木材は、その地域のコミュニティが管理している森林から調達し、建物の建設や維持もコミュニティのボランティアが行う。

狩を行う者も森林に依存している。森林内での水の循環は、野生動物の維持にとって、とくに重要であるため、狩師たちは、森林保全を重視した信条や習慣に従って行動する。また、将来の捕獲量を確保するため、繁殖期に狩猟を行わないなど、狩猟期間に関する習慣を継承している。狩猟を行う場合も、家族の食料として必要な量だけを捕獲する。

このほか、森の中の古い樹を切ると森の守護霊の機嫌を損ね、その結果、村人が病気になってしまうと信じられているので、そのような樹は切らない。川沿いでは、木の伐採やものを包むための木の葉の採取をしない。そこに住む精霊が怒り、村に病気をもたらすからである。こうした精霊信仰は、川岸の植物を保ち、川が干上がり、岸が浸食されることを防ぐのに役立っている。

森林資源の薬草としての利用

カチン州の森林には、薬草として利用できる植物が数多く生えている。こうした植物は、カチンの人びとが焼畑地として利用する高地やコミュニティの共有林にも多く自生する。医療制度の整備されていない農村部に住む多くの先住民族の間では、病気や怪我の治療の際に、このような伝統的な薬草が、現代医学以上に利用されている。薬用効果があるのは、植物の葉、茎、花、樹皮、果実、種、根の部分で、また、植物以外に、鳥の巣や動物を利用することもある。さらに、特定の動物の糞も薬として利用される。カチン族の年長者によると、内戦の間も、新たな薬草や治療方法を試してきたことで、この伝統的な薬草利用の知識に重要な発展をもたらしたという。

カチンの村人たちは、基本的な応急処置として薬草を利用する。薬草に関する知識と、持続可能な採取方法は、世代を越えて受け継がれてきた。なかでも、特別な知識は、父親から息子へと伝承されていく。薬草の知識を持つ父親は、息子の中から一人を選び、知識を伝えることで、薬草の知識は、次世代に確実に継承されてきた。今日では、専門的な知識を持つ人は、男性と女性の両方がおり、父親から受け継いだ場合と、地元で薬草を扱う仕事に就いて習得した場合とがある。最近、より高額な収入を求めて伐採や採掘業界などで働く人が増えていることから、薬草の知識のある男性の数は減少している。

薬草の採集方法

薬草の採集は、儀式化され、過剰に採取されることはない。薬草は、薬としての成分が根の部分に蓄積すると信じられている寒い季節（10月～12月）に採取される。カチンの祖先たちは、もっとも効果的な薬草のみを、犬や鳥の鳴き声のしない静かな中で採取することを教えた。薬草を採取するために人びとが森に入る際には、そのグループの長だけが薬草の根を地面から抜き取る。採取の前には、その植物を右手で持ち、左手で米を撒きながら、「苦しんでいる人を救済するために」と祈りを捧げる。患者は、薬があまったら薬草医に返し、薬草医はそれを、敬意を示す意味を込めて森に投げもどす。

また、薬草医は、特定の薬草を収集するために森に入った場合は、その植物のみを採取することができ、他の植物を同時に収集することはできない。これらの伝統的な手法は、地域住民による乱獲から、薬草という天然資源を守ってきた。

減少する伝統的な薬草資源

カチン州は国境を中国と接しているため、中国から非常に大きな影響を受けている。薬草も例外ではなく、中国企業による天然資源の搾取が増加した結果、薬草のなかには採取できなくなった種もある。また、薬草医たちは、地元の人たちによる違法伐採や換金作物のプランテーションの影響も指摘している。カチン独立機構（Kachin Independence Organization = KIO）とビルマ軍事政権との停戦協定締結（1994年）後は、多くの場所で違法伐採が行われ、町の近くでは薬草を見つけることが年々難しくなっている。また、最近では、販売のために薬草を採取するようになり、薬草の減少に拍車をかけている。今日、ビルマ政府は、多くの民間企業に対して産業植林の許可を与え、企業は、ゴム植林やその他の換金作物を植えるために土地を利用している。薬草医は、自分たちの世代までは残っているだろうが、次の世代に残す薬草はなくなってしまうだろう、と懸念している。

一方で、地元の市民社会と村人の協力で、この伝統的な薬草利用の技術を残そうとする試みも行われている。例えば、Pan Kachin Development Society (PKDS) という NGO が、村人とともに薬草の種類を記録し、子どもたちにその効能を教えるなどの活動を行った。2007年には25種類の薬草名、生息環境、効能をまとめた冊子を発行し、村人たちは、自分たちのまとめた知識を地域に広げようとした。カチン民族は、伝統的な薬草の知識と森を守るため、自分たちの伝統的な森林利用を継承する努力を続けている。こうした村人自身の努力が実を結び、森林資源と伝統的な知恵が受け継がれていくことを期待したい。

<参考資料：英語>

Kachin Development Networking Group. 2009. The Role of Kachin People in the Hugawng Valley Tiger Reserve. In Burma Environmental Working Group (ed.) Accessible Alternatives: Ethnic Communities' Contribution to Social Development and Environmental Conservation in Burma.

<http://www.bewg.org/en/kdng-aa-eng>

Pan Kachin Development Society (PKDS). 2009. Kachin Herbal Medicine Initiative: Creating Opportunities for Conservation and Income Generation. In Burma Environmental Working Group (ed.) Accessible Alternatives: Ethnic Communities' Contribution to Social Development and Environmental Conservation in Burma.

<http://www.bewg.org/en/pkds-aa-eng>

(高橋布美子)